



広報 KOGA NO.26

こが 古河



目次

- 2 子ども会活動
- 4 介護保険事業
- 6 平成18年度決算・平成19年度執行状況

11
NOVEMBER
2007

子どもが主役！



「子ども会」へ おいでよ！

【問】古河庁舎 生涯学習課 ☎22-5111

子ども会とは？

ひと昔前までは、子どもたちは近くの公園や広場でキャッチボールをしたり、鬼ごっこをしたり、かくれんぼをしたり……。小さい子から大きい子まで一緒になって暗くなるまで遊んだものでした。ところが、最近では、子どもたちが巻き込まれる犯罪が多く発生するようになり、近所の空き地や公園で遊ぶことを心配する親も増えているようです。

しかし、子どもたちが元気よく外で遊ぶことは、今も昔も子どもたちの成長にとって欠かせないことだと思います。「子ども会」では、同じ町内や地域に住んでいる異なる年齢の子どもたちが集まっ

て、一緒に遊んだりさまざまな体験活動をしたりする中で、家庭や学校では得られない貴重な経験をし、子どもの「生きる力」を育んでいきます。地域で大人の目に見守られながら、大きい子から小さい子まで一緒に遊ぶ……。そのきっかけづくりを担っているのが地域の「子ども会」なのです。

新生「古河市子ども会育成連合会」設立

去る7月15日、とねミドリ館（生涯学習センター 総和）において、古河市子ども会育成連合会の古河地区（鈴木せつ子会長）、総和地区（知久貴会長）、三和地区（石塚克己会長）が合併し、設立

総会を開催しました。

新生「古河市子ども会育成連合会」（鈴木せつ子会長）は、単位子ども会数が約250単会、子ども会員数が7,800人を超える連合組織です。連合会では、学区・単位子ども会への援助や連携をとりながら、子どもたちの健全な育成に必要な魅力あるイベントを企画したり、子ども向けだけでなく、指導者・育成者の大人向けの研修なども行っていきます。

各地区でも野外活動や球技大会など、楽しい活動がたくさんあります。まだ「子ども会」に入っていない子どもたちも入会して、いろんな学年の人たちと兄弟みたいに一緒に遊んで、いろんな体験や思い出をたくさん作りましょう。

2007年の活動内容をご紹介します!

【古河地区会】

◆幹部研修会(宿泊体験)

さしま少年自然の家

6月30日(土)～7月1日(日)



古河地区の小学5・6年生89人が参加。各班にわかれて役割分担(つどい、レクリエーション、食事、生活、寝具)を決め、子どもたちはそれぞれに自主性、協調性、責任感を豊かな自然の中で養い体験しました。

夜の部では、毎年恒例になっている育成者の手作りによる「暗やみ探検」で、びっくり体験を楽しみました。また、屋外で友だちと作ったカレーライスは、味も雰囲気も家で食べるのとは一味違い、格別だったようです。

10月には球技大会(ドッジボール)を実施。12月には提灯竿もみまつりへの参加を予定しています。

子どもたちが長い提灯竿をもむ勇ましい姿をぜひ見に来てください。



▲写真は、昨年の提灯竿もみの様子

【総和地区会】

◆チャレンジランキング大会

中央公民館大ホール 6月17日(日)

あなたは空き缶を何個積むことができますか? ジャンケンで何回連続で勝てますか? “チャレンジ”は、さまざまな楽しい遊びの記録に挑戦するものです。誰でもどこでも楽しめます。優勝者にはチャンピオン賞状も……。皆さんも参加してみませんか。



▲10月6日、上辺見小学校区でのチャレンジ

◆野外活動キャンプ

那須甲子青少年自然の家

7月28日(土)～30日(月)

総和地区の小学校高学年85人が参加。高校生ボランティアのお兄さん、お姉さんが各班のリーダーとなり、野外炊飯やハイキングを楽しみました。



今後の事業としては、学区チャレンジランキングや新春たこあげ大会を予定しています。

【三和地区会】

◆施設訪問

三和地区の福祉施設 8月2日(木)



三和地区の小学5・6年生、47人の児童が福祉施設2カ所を訪問。入所者と一緒になって、間違い探しやことば遊びゲーム、音楽に合わせた簡単な体操を楽しみました。児童とお年寄りとの世代を超えた微笑ましい交流になったようです。

また、毎年行われている「さんさんまつり」に幼児・低学年児童・家族でも楽しめるアトラクション(ターゲットシャトル・ナイスピッチングなど)を学区ごとに企画をして出店しています。



栃木睦美さん(名崎小6年)

「おじいちゃんやおばあちゃん、他の小学校の人たちと仲良くなれてとても楽しかったです。このような機会があればまた参加したいです。」

「地域のコミュニティのなかで暮らし続けたい！」

介護保険の「地域密着型サービス」ってなあに？

住み慣れた地域を離れずに利用できるなど、利用者のニーズにきめ細かく対応できるよう新設されました。利用者は古河市の住民に限定され、古河市が事業者の指定や指導・監督を行います。

○総合的なサービス

小規模多機能型居宅介護「介護予防小規模多機能型居宅介護」

小規模な住居型の施設で、登録利用者を対象に顔なじみの介護従事者により通いを中心としながら訪問・短期間の宿泊などを組み合わせて食事、入浴などの介護や支援が受けられます。

- ・利用したい人は、直接指定事業所へ申し込みます。
- ・ケアプランの作成も指定事業所で行います。
- ・利用定員のある登録制になります。
- ・この登録者は、このほかの一部の居宅サービスは利用できません。

自己負担(1割)の目安(1ヵ月)

要支援1	4,469円
要支援2	7,995円
要介護1	1万1,430円
要介護2	1万6,325円
要介護3	2万3,286円
要介護4	2万5,597円
要介護5	2万8,120円

○日帰りのサービス

認知症対応型通所介護「介護予防認知症対応型通所介護」

認知症の高齢者が食事、入浴などの介護や支援、機能訓練を日帰りで受けられます。

- ・利用したい人は、介護支援事業所に連絡します。

自己負担(1割)の目安

【6時間以上8時間未満の場合】

要支援1	835円
要支援2	934円
要介護1	967円
要介護2	1,071円
要介護3	1,175円
要介護4	1,280円
要介護5	1,384円

○グループホーム

認知症対応型共同生活介護「介護予防認知症対応型共同生活介護」

認知症の高齢者を対象とし、共同で生活できる場において食事、入浴などの介護や支援、機能訓練が受けられます。

- ・利用したい人は、直接指定事業所へ申し込みます。
- ・ケアプランの作成も指定事業所にて行います。
- ・この利用者は、この他の一部居宅サービスは利用できません。

自己負担(1割)の目安(1日)

要支援2	831円
要介護1	831円
要介護2	848円
要介護3	865円
要介護4	882円
要介護5	900円



地域密着型サービス指定事業所(平成19年10月1日現在)

①小規模多機能型居宅介護(介護予防小規模多機能型居宅介護)

事業所名	所在地	電話番号
小規模多機能型ケア施設蒼天の郷	古河市仁連1987-1	75-0176
小規模多機能型居宅介護および介護予防小規模多機能型居宅介護ポプリ	古河市鴻巣1555 古河病院内5階	47-1010

②認知症対応型通所介護(介護予防認知症対応型通所介護)

事業所名	所在地	電話番号
グループホームローズマリー	古河市古河514-1	30-8338
デイサービスセンターゆうりん	古河市東牛谷135-2	98-5345
わたらせデイサービスセンター	古河市大山507-5	47-0161

③認知症対応型共同生活介護(介護予防認知症対応型共同生活介護)

事業所名	所在地	電話番号
グループホームローズマリー	古河市古河514-1	30-8338
グループホーム南風	古河市坂間185-14	47-0315
グループホームみやびの里	古河市駒羽根1420-1	91-1581
グループホームにれの木桃花寮	古河市仁連1987-15	75-1117

介護サービスを利用するには？

介護を利用したい時は、要介護認定の申請を行います。申請をして、要介護または要支援と認定された時は、介護サービスおよび介護予防サービスが受けられるようになります。

介護サービス利用の流れ

サービスを選びます

- 在宅でサービスを受けたい人は、居宅サービスを選びます。
- 施設に入所したい人は、施設サービスを選びます。
(※表1参照)

居宅サービスを利用する人は、居宅介護支援事業者に連絡します
※地域密着型サービスの小規模多機能型居宅介護、グループホームを除く
施設サービス等を利用する人は、介護保険施設等に申し込みます

ケアプランを作ります

- ケアマネージャーは、本人や家族の要望を聞き、サービスの内容、費用などについてアドバイスします。
- ケアマネージャーは、各サービス事業者と連絡・調整し、ケアプランの原案を作ります。
- 費用、日時などに利用者が同意したら、ケアプランができあがります。

サービスの利用が始まります

介護予防サービス利用の流れ

連絡・契約

- 要支援1・2と認定された結果通知が届いたら、地域包括支援センターに連絡・相談をします。

話し合い(課題分析)

- 家族や地域包括支援センターの職員と今どのようなことで困っているか？これからどのような生活を希望するのか？などについて話し合います。

介護予防ケアプランの作成

サービスの利用開始

評価・見直し

介護および介護予防サービスの種類 (※表1)

◆居宅(予防)サービス

用 途	サービスの種類	予防
サービス利用の相談	居宅介護支援	○
自宅に訪問してもらう	訪問介護(ホームヘルプサービス)	○
	訪問入浴介護	○
	訪問リハビリテーション	○
医者の指導による助言・管理	居宅療養管理指導	○
	訪問看護	○
施設に通う	通所介護(デイサービス)	○
	通所リハビリテーション(デイケア)	○
短期間施設に泊まる	短期入所生活介護(ショートステイ)	○
	短期入所療養介護(医療型ショートステイ)	○
施設に入って利用する居宅サービス	特定施設入居者生活介護(有料老人ホーム等)	○
地域密着型サービス	小規模多機能型居宅介護	○
	認知症対応型通所介護	○
	認知症対応型共同生活介護(グループホーム)	○ 要支援1を除く
福祉用具を借りる	福祉用具貸与	○
福祉用具を買う	特定福祉用具購入	○
住宅を改修する	居宅介護住宅改修	○

◆施設サービス

用 途	サービスの種類	予防
生活介護が中心	介護老人福祉施設(特別養護老人ホーム)	△
介護やリハビリが中心	介護老人保健施設	△
医療が中心	介護療養型医療施設	△

【問】 介護保険課(総和福祉センター「健康の駅」内) ☎92-4921

平成18年度の決算状況

一般会計の概要

平成18年度の決算状況については、新「古河市」として初めて統一した年間決算となっています。

平成18年度の一般会計決算額は歳入(収入)が400億5134万円、歳出(支出)391億2638万円で、歳入が歳出を9億2496万円上回りました。このうち、翌年度に繰り越すべき財源は1億9054万円で、実質的には7億3442万円が上回ったことになります。

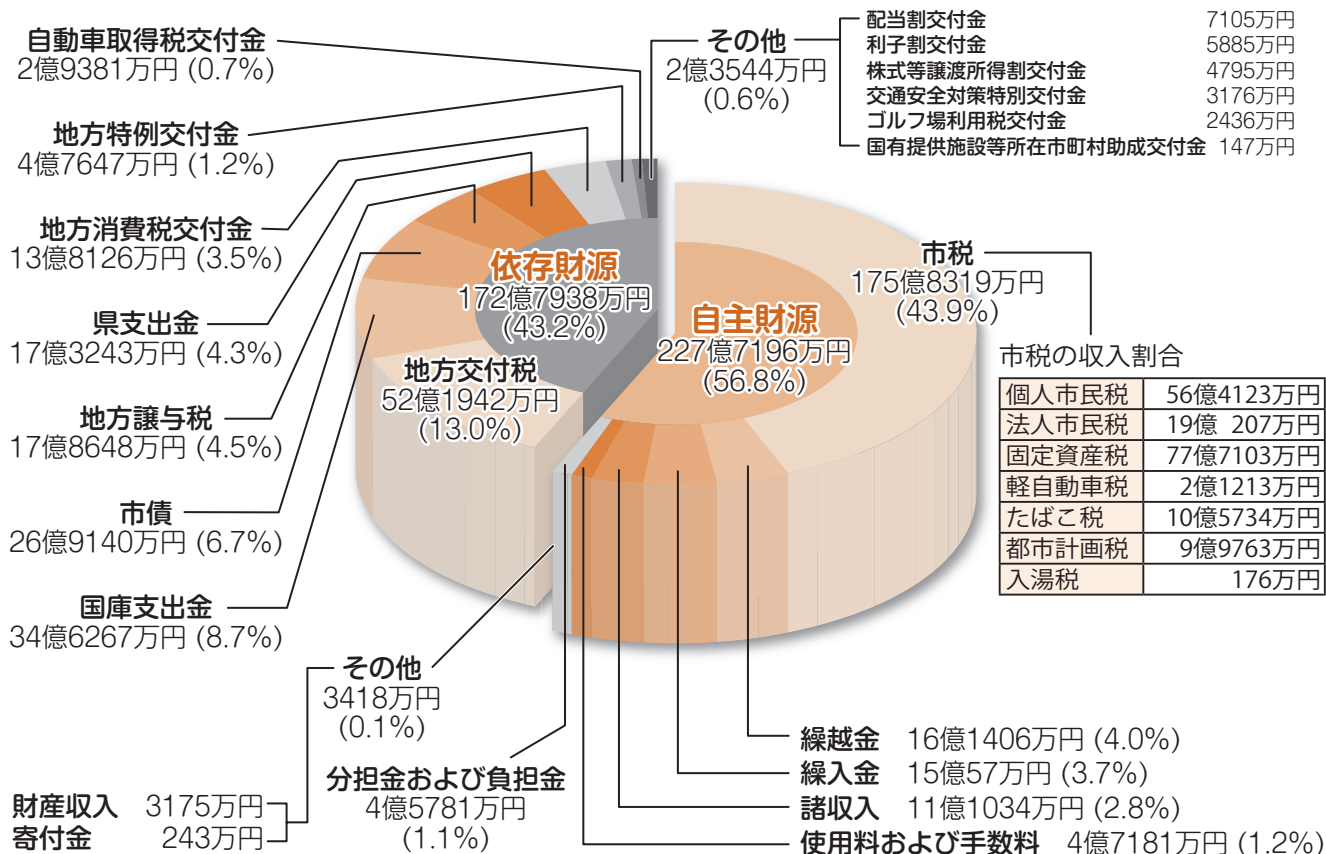
○歳入

一般会計の歳入は約400億5000万円で、前年度と比べて約11億7000万円、3.0%増加しました。これは、市税および地方譲与税、市債が増加したことによるものです。

歳入の主な増減理由について

一般会計 歳入決算額 400億5134万円

本文および図表の額は、一部を除き千の位を四捨五入した数値を用いているため、合計額などで若干の誤差が生じることがあります。



は、次の通りです。

市税収入の増加：個人市民税や軽自動車税、たばこ税などが増加し、前年度と比べて約5億円、7.8%増加、一方、法人市民税や固定資産税などは減収となり、前年度と比べて約4億6000万円、4.1%の減収となりました。市税全体では前年度と比べて約3600万円、0.2%の増加となりました。

地方譲与税の増加・地方交付税の減少：国の「三位一体の改革」に伴う税源委譲により地方譲与税は前年度と比べて約5億4000万円、43.8%の増加となりました。一方、地方交付税は前年度と比べて約2億4000万円、4.5%の減少となりました。

地方特例交付金の減少：恒久的な減税に伴う地方税の減収を補てんするために交付される交付金で前年度と比べて約1億円、17.6%の減少となりました。

使用料および手数料の減少：指定管理者導入のためスポーツ交流センターおよびリバーサイド倶楽部使用料の減少、特別会計新設のため福祉の森諸検査等手数料が減少となり、使用料および手数料全体で前年度と比べて約2億1000万円、31.4%の減少となりました。

国庫・県支出金の増加：生活保護費や児童手当、投資的事業などに対する国や県の負担交付金の増加により前年度と比べて約4億3000万円、9.1%の増加となりました。

市債の増加：合併特例事業の活用による合併特例債の増加により、前年度と比べて約4億2000万円、18.7%の増加となりました。

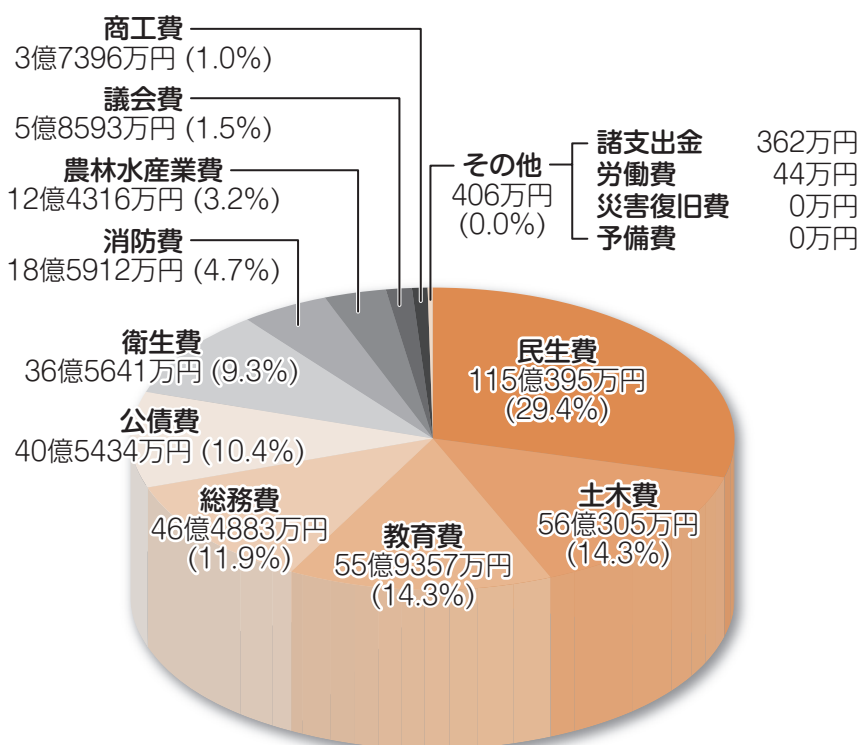
○歳出

一般会計の歳出は約391億円、前年度と比べて約18億6000万円、5.0%増加しました。

これは、生活保護費や児童手当などの扶助費の増加、小学校6年生まで対象を拡大した医療費助成(市単独)事業の扶助費の増加、さしま環境管理事務組合負担金(ごみ処理施設整備負担金)、まちづくり交付金事業(上辺見地区)、諸川小学校施設整備事業、古河第六小学校給食室新設事業などの投資的経費が増加したことによるものです。

一方で、公債費は義務教育施設整備事業(古河第三小学校・古河第二中学校)および生涯学習センター建設事業、福祉の森整備事業などの償還終了にともない減少。また、合併に伴う電算移行経費や古河第二小学校南校舎改築事業などが平成17年度で事業終了したことにより減少しました。

一般会計 歳出決算額 391億2638万円



財政用語

○自主財源

地方公共団体が自主的に収入しうる財源をいう(地方税、分担金および負担金、使用料および手数料、財産収入、寄附金、繰入金、繰越金、諸収入)

○投資的経費

支出の効果が資本形成に向けられ、施設等将来に残るものに支出される経費をいう(普通建設事業費、災害復旧事業費等)

市民1人당りに 換算すると

市民1人が納めた市税の額

個人市民税	3万8640円
法人市民税	1万3028円
固定資産税	5万3228円
軽自動車税	1453円
たばこ税	7242円
都市計画税	6833円
入湯税	12円
合計	12万436円

あなたの納めたお金はこうに使われました

民生費(高齢者や児童等の福祉の充実)	3万5408円
土木費(道路・公園・河川の整備)	1万7222円
教育費(学校教育・生涯学習・文化財保存など)	1万7222円
総務費(住民登録・交通安全・選挙など)	1万4332円
公債費(借入金の返済)	1万2525円
衛生費(ごみ処理・健康対策など)	1万1201円
消防費(消防・救急・防災活動)	5660円
農林水産業費(農業の振興)	3854円
議会費(議会の運営)	1807円
商工費(商工業・観光の振興)	1204円
その他(労働費・諸支出金)	1円
合計	12万436円

※計算に使用した人口は、平成19年4月1日現在の14万5996人です。

平成18年度の主な事業(一般会計)

JR古河駅バリアフリー化整備補助事業 3627万円

JR古河駅構内の上りホームと下りホームにそれぞれ1基ずつのエレベーターと多機能トイレの設置に対して補助を行い、小さな子どもを連れた人や高齢者、車椅子の人などが快適に駅を利用できるよう整備を行いました。



住宅リフォーム資金助成事業 1412万円

市民が市内の施工業者により住宅・店舗・工場のリフォームを行った場合、その工事費の一部を助成することで市内の施工業者への受注を増やし、市内の商工業の活性化を図りました。

医療福祉費(市単独)事業 6600万円

県の乳幼児医療福祉費支給制度(マル福)の未就学児の所得超過者の助成および平成18年10月より小学校6年生までを対象に医療費の一部を市単独で助成し(県内医療機関は現物給付)、子どもを育成する家庭の経済的負担の軽減を図りました。
(小学生受給者件数2万6669件、給付金額4052万円)

○出産子育て奨励金支給事業 1260万円

平成18年4月以降に第3子以上を出産した家庭を対象に奨励金30万円を支給し(年間10万円を3カ年間支給します)、少子化対策に寄与するとともに、多子家庭の経済的負担の軽減を図りました。
(奨励支給人数 126人)



斎場駐車場整備事業 1億758万円

斎場の駐車場不足を解消するために、隣接する用地を購入し駐車場整備を行い、施設利用者の利便性を図りました。

ふるさと農道緊急整備事業(葛生地区・北山田地区) 9895万円

葛生地区および北山田地区の排水が悪く、幅員が狭小な農道の道路改良を行い、農作業および農作物の流通を円滑にし、農業生産環境の充実を図りました。

まちづくり交付金事業(上辺見地区) 4億178万円

まちづくり交付金制度を活用して上辺見地区および女沼地区の一部を含む区域内の道路・公園等の基本計画策定や用地買収等を行い、緊急車両の道路を確保し、安全で快適なまちづくり整備を行いました。

大聖院牛谷線(電線類地中化)整備事業 5345万円

東三丁目・東本町二丁目地内の電線類地中化工事の修景工事を行い、道路交通の円滑化と歩行者の安全を確保し、良好な景観の形成が図られました。

イベント事業 6231万円

古河市の豊富な観光資源を生かした特色あるイベントを開催し、総和関東ド・マンナカ祭り、菊まつりの集客数は約21万人、花火大会の集客数は約16万人、桃まつりの集客数は約16万人、提灯竿もみまつりの集客数は約8万人と多くの観光客が訪れ、古河市の活性化が図られました。



公立保育所および小中学校防犯カメラ整備事業 5168万円

古河地区の公立保育所および古河地区、三和地区の小中学校(古河第二小学校を除く)に防犯カメラを設置し、不審者等に対する防犯対策を図りました。

古河第六小学校給食室新設事業 1億3115万円

平成19年度より自校方式給食事業を開始するために、給食室新設工事を行い、栄養士による食の指導、学校ごとの行事に合わせた内容の給食の提供等が可能になり、教育環境の整備を図りました。



総和中学校改築事業 4889万円

生徒の安全の確保および良好な教育環境を整備するために、老朽化した総和中学校の校舎改築(平成19年度から平成20年度に改築工事)の実施設計等を行い、改築工事の準備を行いました。

諸川小学校施設整備事業 (北校舎大規模改造・耐震補強) 1億4187万円

諸川小学校北校舎の耐震補強工事および大規模改造工事を行い、児童の安全の確保と良好な教育環境の向上が図られました。



特別会計の概要

特別会計(11会計)の決算額を合計すると歳入が355億1997万円で前年度と比べて約13億1000万円、3.8%の増加となり、歳出が347億7828万円で前年度に比べて約9億7000万円、2.9%の増加となりました。

前年度と比べて介護保険特別会計(保険事業勘定)が約4億7000万円、古河駅東部土地地区画整理事業特別会計が約1億5000万円の増加となり、一方で国民健康保険特別会計(直診勘定)が約1000万円、ゴルフ場事業特別会計が約5000万円の減少となりました。

また、平成18年度より新設さ

れた介護保険特別会計(介護サービス事業勘定)が約2000万円、古河福祉の森診療所特別会計が約2億6000万円、公共用地先行取得特別会計が約1億7000万円増加し、一方で広域中央運動公園特別会計は廃止となりました。

区分	歳入	歳出	差引額
国民健康保険特別会計(事業勘定)	139億2305万円	136億9323万円	2億2982万円
国民健康保険特別会計(直診勘定)	8095万円	7375万円	720万円
古河福祉の森診療所特別会計	2億8126万円	2億6190万円	1936万円
老人保健特別会計	85億3873万円	84億1989万円	1億1884万円
介護保険特別会計(保険事業勘定)	53億1344万円	51億4408万円	1億6936万円
介護保険特別会計(介護サービス事業勘定)	1708万円	1470万円	238万円
公共下水道事業特別会計	52億7558万円	51億9071万円	8487万円
農業集落排水事業特別会計	12億 252万円	11億8343万円	1909万円
ゴルフ場事業特別会計	3億3336万円	3億3310万円	26万円
古河駅東部土地地区画整理事業特別会計	3億8141万円	2億9090万円	9051万円
公共用地先行取得特別会計	1億7259万円	1億7259万円	0万円
合計	355億1997万円	347億7828万円	7億4169万円

水道事業会計の概要

古河市水道事業では、市民の皆さんが安心して水をお使いいただけるよう、水道法に基づく「水質管理」「浄水場や水道管などの施設管理」「漏水の修理」「料金の収納」など水道業務全般についての仕事をしています。

こうした仕事に要する経費のほとんどは、一般の行政サービスが税金で賄われているのに対し、水道事業は皆さんにお支払いいただいている水道料金、国などからの借入金によって賄われています。

公営企業である古河市水道事業の経営は次のとおりです。

○主要事業

施設整備では、思川浄水場の拡張工事、三和配水池築造工事・取水施設改良工事、未整備地区の解消を目的とした配水管布設工事、また石綿セメント管等の配水管布設替工事を実施しました。

○業務概要

給水人口	138,493人
給水戸数	49,898戸
年間総給水量	15,549,386m ³
1日最大給水量	48,895m ³

○決算

収益的収入	20億5557万円
収益的支出	19億7599万円
収支差額	7958万円

資本的収入	3億1100万円
資本的支出	18億1801万円
収支差額	△15億 701万円

※資本的収入額が資本的支出額に対し不足する額は引継ぎ補てん財源、過年度分損益勘定留保資金で補填しました。

市の借金

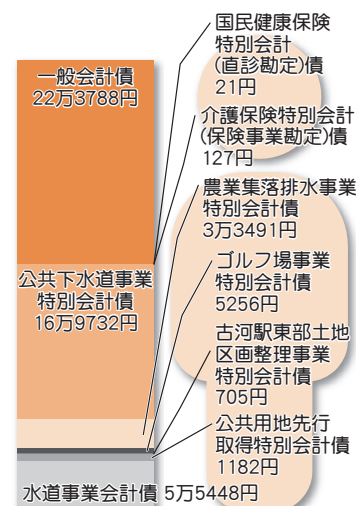
市全体の借金(起債)は平成18年度末で715億145万円となります。平成18年度も事業を実施するための財源を確保するために一般会計では土木債に4億7350万円、教育債に2億9620万円、衛生債に1億250万円、農林水産債に1億4540万円、減税補てん債に1億7660万円、臨時財政対策債に14億360万円、その他で9360万円、合計26億9140万円の借り入れを行いました。

また、特別会計では公共下水道事業特別会計に10億9220万円、農業集落排水事業特別会計に4億1960万円、公共用地先行取得特別会計に1億7250万円、合計16億8430万円、水道事業会計は2億円の借り入れを行いました。

会計区分		平成16年度末残高	平成17年度末残高	平成18年度末残高
一般会計		340億7947万円	331億8347万円	326億7215万円
特別会計	国民健康保険(直診勘定)	565万円	403万円	312万円
	介護保険(保険事業勘定)	2866万円	2780万円	1853万円
	公共下水道事業	259億1698万円	252億9816万円	247億8018万円
	農業集落排水事業	43億4810万円	45億9898万円	48億8957万円
	ゴルフ場事業	11億6695万円	9億7044万円	7億6739万円
	古河駅東部土地区画整理事業	1億1959万円	1億1130万円	1億 287万円
	公共用地先行取得	—	—	1億7250万円
	水道事業	87億6625万円	83億3063万円	80億9514万円
合計		744億3165万円	725億2481万円	715億 145万円

※計算に使用した人口は平成19年4月1日現在の14万5996人です。

市民1人当たりの借金



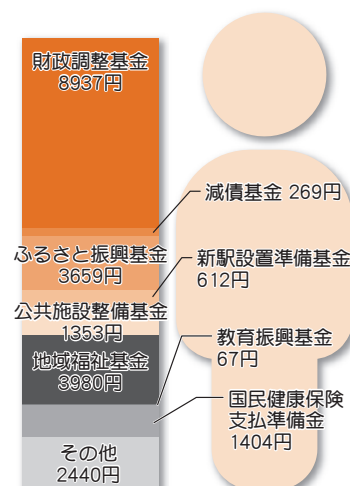
市の貯金

市全体の貯金(基金)は平成18年度末で33億1724万円となりました。

基金名	平成17年度末残高(A)	平成18年度末残高(B)	増減(B)ー(A)
財政調整基金	21億8789万円	13億 471万円	△8億8318万円
減債基金	8928万円	3932万円	△4996万円
ふるさと振興基金	6億2342万円	5億3426万円	△8916万円
新駅設置準備基金	1億8915万円	8932万円	△9983万円
公共施設整備基金	3億2729万円	1億9751万円	△1億2978万円
地域福祉基金	7億9043万円	5億8099万円	△2億 944万円
教育振興基金	977万円	978万円	1万円
国民健康保険支払準備金	6億7519万円	2億 505万円	△4億7014万円
その他	3億5909万円	3億5630万円	△279万円
合計	52億5151万円	33億1724万円	△19億3427万円

※計算に使用した人口は平成19年4月1日現在の14万5996人です。

市民1人当たりの貯金



平成19年度予算の執行状況(9月末現在)

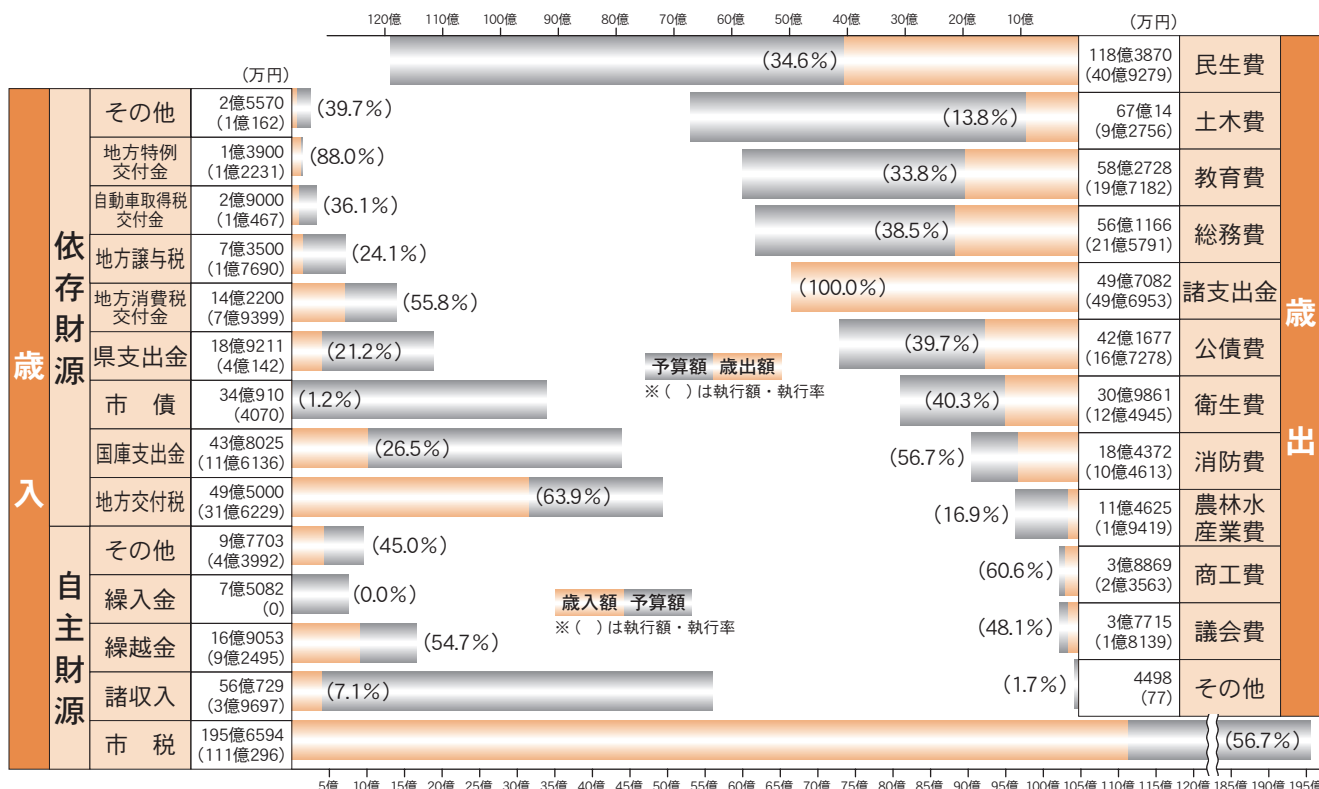
平成19年4月から9月末までの一般会計の執行状況は、歳入189億3006万円、歳出186億9995万円となっています。

歳入の市税の主なものは、個人市民税38億2422万円、法人市民税12億2854万円、固定資産税57億5188万円となっています。

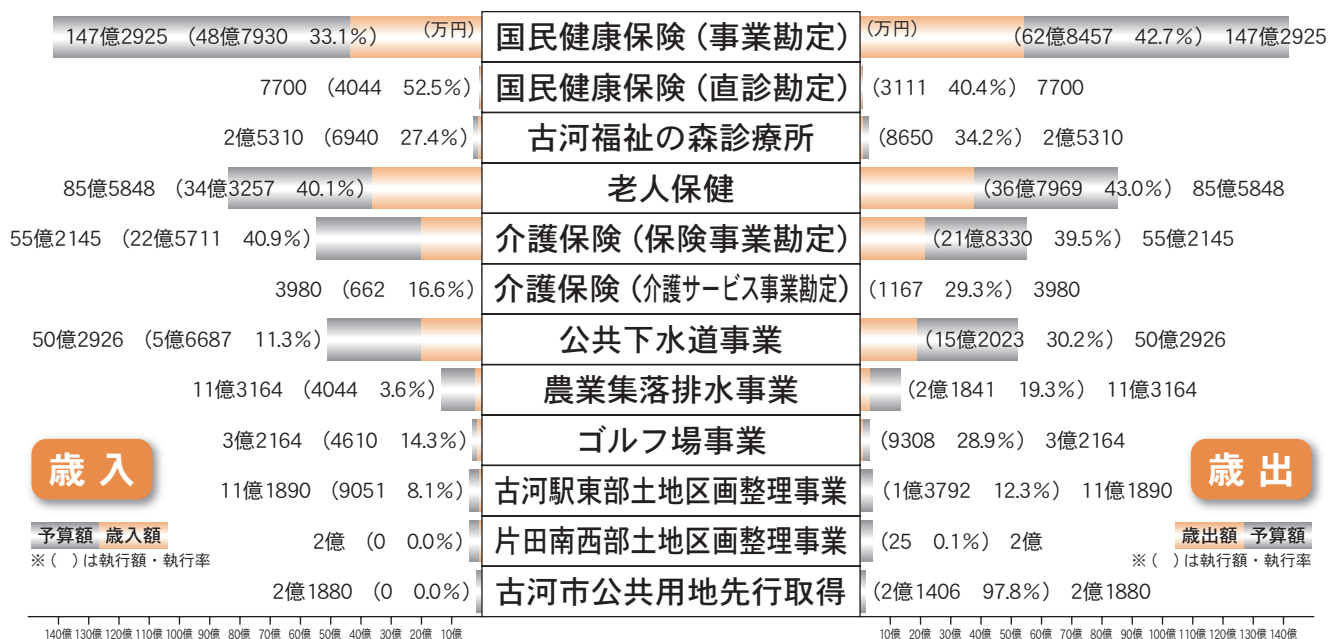
特別会計(12会計)の執行状況は、合計で歳入114億2936万円、歳出144億6079万円となっています。



平成19年度 一般会計予算執行状況



平成19年度 特別会計予算執行状況





▲ロシアの首都モスクワの中心部にある
世界遺産「クレムリンと赤の広場」

私は昭和33年に当時の三和村諸川で生まれ、諸川保育園、諸川小、三和中、古河三高と文字通り古河で生まれ育ちました。東京大学卒業後、貿易商社に就職し、今まで通算10年海外生活をしてきました。生活も考え方も異なる海外での仕事は苦勞が多いのですが、学ぶこともまた多い毎日で、私の海外経験を少しご紹介させていただきます。

最初は南アフリカに住みました。アフリカは夕日が綺麗です。草原に沈んでゆく夕日をバックに木や動物がシルエットになると時が止まったように感じました。以来、つとめて夕暮れ時には夕日を眺めています。海で、山で、ビルの谷間で、夕日はいつもストレスを消し去り落ち着きをもたらしてくれる存在になりました。

次に住んだのはイランです。イランの思い出は、街中に流れるコーランの声です。アラビア語の意味は分からなくても、不思議とホッとしたものです。日々忙しく仕事をしていると、「目を閉じて耳を澄ます」ということをしなくなりますが、耳を澄ますと普段聞こえていなかった音が街にあふれていることが分かります。「こんな夜中に自動車を運転している人がいる」とかいろいろな人がさまざまなことをしていることに気づき、心が広がっていきます。

今はモスクワに住んでいます。ある日、シベリア上空を夜間7時間飛行機で飛びました。その間、地上にはほとんど光がありませんでした。東京と大阪の7倍の距離にほとんど人が住んでいない土地を持つ国ロシア。そのせいか、ロシアの人たちはスケールが大きく「どちらにしても大差ない」と非常におおらかです。「どっちでもよい」ことを「どっちかにしよう」とするのではなく、「どっちでもよいことは放っておく」こと。段々、大雑把になっていく自分を感じています。



ロシア・モスクワ在住
木村 昭さん

私も定年後は古河に戻るつもりですが、ちょっと目を離すとすぐに海外放浪の旅に出てしまう「チョイワルじいさん」を目指したいと思っています。

古河文学への関心が深まりました

古河ゆかりの文学者と作品について学び、親しみをもってもらうと、9月14・15日の2日間「秋の文学散歩」が開催されました。初日は古河文学館講座室で古河が舞台となった16作品についての講話。翌日は徒歩とバスで、市内に点在する文学史跡を散策しました。前日の講話に関連した場所を見学するということもあり、皆さんとても感慨深い様子。「普段何気なく見ていた場所も、見方が変わりましたね。」という声がかかるなど、古河文学を楽しむ2日間となりました。



▲古河総合公園では、若杉鳥子の歌碑について説明がありました

子どもの体力向上キャンペーン「野球教室」

9月21日、駒羽根小学校に元プロ野球選手の小林宏さん(オリックスブルーウェーブ・楽天イーグルスで活躍)が訪れました。

今回の野球教室は、文部科学省が行っている「スポーツ選手ふれあい指導事業」の一環で、子どもたちの運動やスポーツ習慣の形成に向けて、有名なスポーツ選手を全国の小学校に派遣して、講話や実技指導を行い、子どもの体力向上を図るものです。

あこがれの元プロ野球選手から直接指導を受けた子どもたちの目は、キラキラと輝いていました。



▲初めて野球ボールを触った子どもたちにも、熱心な指導をしていた小林宏選手

観光案内所がJR古河駅に移転

10月1日、JR古河駅構内に市観光協会の観光案内所が移転し、オープニングセレモニーが行われました。従来の観光案内所は駅西口側にある「まちなか再生広場」内に設置されていましたが、駅から離れているため「場所が分かりにくい」という声があるなか、JR側の協力があり、見事移転が実現しました。

今は机やイス等を置いた「臨時」案内所ですが、来春までに「本格的なブース」に仕立てる予定。案内役には観光ボランティアガイド協会のメンバーが常駐します。



▲改札口を出てすぐ左隣りに移転した「観光案内所」のオープニングセレモニー

条例制定の直接請求がありました

平成19年10月3日、緑川美雅世氏を代表者とし、有効署名7,097人の署名簿を添えた「古河市市長等特別職の給料、教育委員会教育長の給料及び古河市議会議員等の報酬を引き下げる条例制定」の直接請求がありました。請求の内容は、市長、副市長及び教育長の給料、議会議員の報酬を一

律10%削減することを求めたものです。

市長は10月4日受理し、10月22日議会臨時会を招集しました。

臨時会では、議案を議会改革検討特別委員会に付託し、慎重に審議いたしました。継続して審査することとなりました。

市長、副市長及び教育長の給料については、特例条例により30%、13%、7%とそれぞれ減

額しているところですが、市長は、臨時会において更に10%減額し、市長は40%減の58万2千円に、副市長は23%減の59万3千円に、教育長は17%減の55万7千円とする条例案を提出しました。審議の結果、直接請求議案と同様に継続審査となりました。

詳細は古河市ホームページに掲載してあります。

【問】総和庁舎総務課 ☎92-3111

新しい校舎のイメージが膨らみました

このほど、総和中学校改築工事で杭打ち工事が始まり、生徒たちが工事現場を見学しました。

この工事では、全長20メートルのコンクリート杭を全部で164本埋め込みます。以前は大きなハンマーを落として杭を打ち込んでいましたが、騒音と振動に配慮し、今ではドリルで穴を掘りながら杭を埋め込んでいく方法がとられています。

「新しい校舎は、とても頑丈なものになります。」との説明に、参加した生徒は「こんなに大きな工事現場を間近かで見るのは初めて。工事の方法を考えた人はすごいですね。」と目を輝かせながら感想を話してくれました。

新校舎の完成が楽しみです。



▲大きなクレーンが杭を持ち上げる様子は迫力満点



▲部品の模型を実際に手にしながら工事の仕組みを勉強しました

日々新たなり

古河市長 白戸伸久

～季節感～

「閑さや岩にしみ入蟬の声」

みちのくを旅する芭蕉が山寺で詠んだ名句です。静寂の中、かえって蟬の鳴き声があたりの静けさを感じさせる表現は、実に味わいがあります。同時に、この句に夏の風情を感じることもできます。

しかし、今年の夏は、そんな風情を感じることができないくらい暑さで、まさに酷暑でした。

日本の風土の良さに四季があります。そこに地域の行事やイベントが絡み合って織りなす営みが、人間社会の潤滑油になっているような気がいたします。

合併して2年。行事カレンダーを振り返りますと、秋には関東ドマンナ祭り、産業祭、よかんべまつり、菊まつり、市民運動会や市民文化祭、冬には提灯竿もみまつり、春には桃まつりや花桃ウォーク、マスターズサッカー全国大会、そして、夏には神輿まつりや花火大会など、古河市には実に多くの行事やイベントがあります。

市民自らが楽しむものや伝統を継承したもの、市外から多く

のお客様をお迎えする観光イベントなど多彩に富んでいます。いずれも市民の皆様の積極的なご協力とご参加のもと、合併してより賑やかさを増しつつ行われてきました。

行事等を通して深められた市民の一体感は、新市への愛着を育み、新しいまちづくりの原動力となります。「いきいき古河」の実現には、こんなアプローチの仕方もあると思います。そして、こうして定着した行事等は、毎年、古河の四季の移り変わりを告げる時計台の役割を果たしていくことでしよう。

そんな「いきいき古河」を、今、芭蕉が生きて訪れたとしたら、どんな句を詠んでくれるだろうか。



▲秋の風物詩「市民運動会」

My Hobby

シルバーパワー全開の演劇集団

しんわりげきだんことぶきざ 新割劇団寿座



▲地域全体を演劇で盛り上げていきます！

「地域の人々の地域の人たちによる地域の人たちのための演劇」を旗印に、市内の老人クラブに演劇を披露している新割行政区のシルバー演劇集団が話題になっています。

全員が演劇経験ゼロ

古河市総和老人クラブ連合会に所属するクラブが月1回、2～3クラブずつ集い、特技を披露して親睦を深めています。この月例会でひととき大きな歓声を集めているのが「新割劇団寿座」。カラオケや舞踊を発表するクラブが多い中、2年前に「何か目先が変わったもので、老化防止になるものは何か？」と市内小堤の老人クラブ「新割寿会」の有志たちで始めたのが演劇。現在、11人の団員で結成してお

パークライフ

《大人たちのどろんこクラブ(古河総合公園)》

「どろんこクラブ」は、“園内のホッツケ田とおつきあいを通じた楽しい営みづくり”、“やりたいことをみんなでちょっとずつ協力しながら実現”を目的とした仲間たちです。小学生とその親たちが中心で、子どもも大人も一緒に作戦会議をやりながら、初夏の田植え、夏の流しソーメン、秋の稲刈り、民家園のかまどを利用したおにぎりづくりなど一年を通じてドラマを展開しています。

この一年は、「お父さんたち」の活躍がめざましい。最初、腕組みをして見ていたお父さんたちは、「子どものために……」、「家族のために……」と口にする。次第に、渋々(ムズムズしながら)、子どもを手伝う。そして、近ごろ、こんな言葉が聞かれるようになった「私も楽しみたいから……」 「私もこういうの

やってみたかったので……」

会社のため、女房のため、“ためため”の重ね着をしたお父さんたちが、一枚ずつ服をぬいでいくと、一人の人間としての姿に立ち戻る。こうなると、実に生き生きしてくる。「君は何したいの?」「どんなアイデアがあるの?」子どもを世話するというよりも、一人の人間として接する会話が発せられる。

お母さん方、お父さんの背中を押して「どろんこクラブ」をのぞいてみませんか!

あらゆる世代のご参加をお待ちしています。



▲大人も、子どもも、いっしょに稲刈り

【問】古河総合公園管理棟

パークマスター ☎47-1129 FAX48-5685

Eメールkogapark-iwahori@bz01.plala.or.jp

り、全員が演劇経験ゼロ。町内会館で月2回程度の稽古を続け、今年3月の月例会で初舞台を披露しました。

工夫凝らして楽しく

指導者は特にいませんが、落語・がまの油売り・安来節（ドジョウすくい）などの芸を持つ木下泉さん（63歳）が脚本や演出を担当しています。始めのころは「恥ずかしい」などと話していたメンバーたちも、最近は「客席からの歓声が快感」と演劇の魅力にひかれています。

このほど開かれた月例会の演目は、「瞼の母」。衣装や小道具はすべて手作り。本来はお涙ちょうだいの物語ですが、「歌あり笑いあいの楽しい劇」に仕上がって大好評。「いいぞ」というかけ声とともに客席から舞台に小銭の入ったおひねりがたくさん飛んでいました。

▶ 会場に爆笑の渦を巻き起こしました
(古河市総和老人福祉センター)



「茨城元気シニアバンク」に登録

今年8月に、市内で1番目という、県の元気シニア地域貢献事業（高齢者の皆さんの豊富な知識・経験・技能を地域で生かして高齢者の社会参加活動を促進するもの）に登録。「これからは、老人介護施設などから出演依頼があれば、よろこんで披露しますよ。そのためにも新しい演目に挑戦していきます！」と皆さん張り切ってます。

文化財の窓 文化財保護強調週間

11月1日(木)～7日(水)の1週間は「文化財保護強調週間」です。

文化財は、日本の長い歴史の中で生まれ、育まれ、今日まで守り伝えられてきた国民共有の貴重な財産です。文化財を保護し、後世に伝えていくためには国民全体の協力が不可欠であり、文化財に対する理解を深め、尊重する心を絶えず培っていくことが必要です。

この週間ができる契機となったのは、昭和24年(1949年)1月26日に世界最古の木造建築物である法隆寺金堂が火災により焼損し、壁面に描かれていた貴重な障壁画の大半が失われた事件でした。これは金堂壁画の解体修理中に起きた火災で、取り外されていた20面のうち、内陣小壁の飛天図を除きすべて焼損しました。昭和15年以来続けられていた壁画の模写作業は未完成に終わりました。現在の再建金堂には昭和43年に日本画家14名による協同製作になる再現模写図がはめこまれています。これにより、火災などの災害による文化財保護の危機を憂慮する世論が高まり、昭和25年には「文



▲文化財愛護シンボルマーク

化財保護法」が制定されました。昭和29年11月3日に金堂修理の竣工式が行われたのを機に、文化財愛護思想の普及啓発を目的として「文化財保護強調週間」が定められました。その後、昭和30年に1月26日が「文化財防火デー」と定められ、文化財を火災・震災その他の災害から守るために、全国的に文化財防火運動を展開し、国民一般の文化財愛護思想の高揚が図られています。

「文化財愛護シンボルマーク」は、文化財愛護運動を全国的に展開するため、公募により、昭和41年5月に定められたものです。このシンボルマークは、ひろげた両方の手のひらのパターンによって日本建築の重要な要素である斗拱(組み物)のイメージを表し、これを3つ重ねることにより、文化財という民族の遺産を、過去・現在・未来にわたり永遠に伝承していくという愛護精神を象徴したものです。

斗拱は寺院や神社などの建造物にみられます。市指定文化財の雀神社社殿にも斗拱をみることができます。
(文化課文化財保護係)

古河文学館特別展 「佐江衆一展」

昭和9年東京生まれの佐江衆一^{さえしゅういち}氏は、学童疎開を経て昭和22年古河へ転居、以後13年間を古河で過ごします。

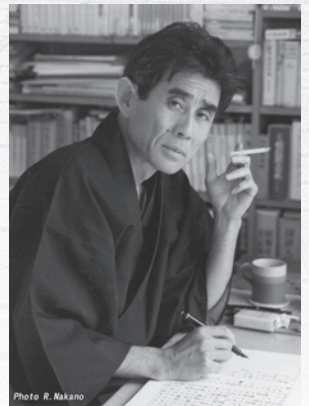
昭和35年、同人誌「文藝首都」から推薦された「背」で新潮社同人雑誌賞を受賞して文壇へデビュー。翌年の「繭」^{まゆ}をはじめ5回、芥川賞候補となり注目されました。その後も、新田次郎文学賞、ドゥ・マゴ文学賞、中山義秀文学賞を受賞、老老介護の体験を描いた『黄落』はベストセラーになり、純文学から時代小説まで幅広い活躍を続けています。

多忙な執筆活動の傍ら、常に新しいこと—古武道、剣道、茶道、書画、英会話、熱帯雨林植樹など—への挑戦を続けているという点でも特筆すべき作家の一人です。

今展では作品群、肉筆資料、賞牌類、愛用品などの資料を通して、佐江衆一氏の半生とその作品世界に迫ります。職人気質とも言われる佐江氏の秀作の数々に親しんでもらうきっかけとなれば幸いです。

■佐江衆一氏とゲストをお招きしてのイベントを行います。

- ①11/4(日) 対談「50歳からが面白い」ゲスト：黒木善健氏(剣道教士七段)
 - ②11/11(日) 自作朗読「対の鉤」と対談 ゲスト：二木てるみ氏(女優)
 - ③11/17(土) 対談「古河時代の青春」ゲスト：宇佐見セツ夫氏(漫画家)
 - ④11/23(祝) 対談「栃高時代の思い出」ゲスト：石橋晃氏(日本科学飼料協会理事長)
 - ⑤11/24(土) 記念講演「作家生活あれこれ」講師：佐江衆一氏
- いずれも古河文学館サロン 午後2時開演 定員70人(電話申込・先着順) 参加費無料



▲「黄落」執筆のころ

会場 古河文学館
会期 11月25日(日)まで
入館料 一般200円
小中高生50円
休館日 11/5・12・19
【問】古河文学館
☎21-1129

図書館おすすめの図書

◇一般書

・「あっ、忘れてた」はなぜ起こる

梅田 聡 著



ど忘れは年をとると増えるが、し忘れは若者のほうが多い? 人はどうして「しようと思っていたこと」を「タイミングよく」思い出せるのか。日常的な記憶経験を出発点に、心理学と脳科学の成果から、そのメカニズムを探る。

出版社…岩波書店 分類…141 ウ

・上海クライシス

春江 一也 著



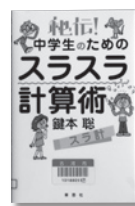
シルクロードの彼方から舞い降りた「うたかたの恋」は、中国の権力闘争とCIAの陰謀に巻き込まれ意外な道へと踏み込んでいく……。 「上海日本総領事館員自殺事件」をヒントに、中国自滅への道を克明に描くサスペンス・ロマン。

出版社…集英社 分類…F ハ

◇児童書

・秘伝! 中学生のためのスラスラ計算術

鍵本 聡 著



「2ケタ同士のかけ算」「一次方程式」「二次方程式」「平方根」「分数の約分」「分母の有理化」などが、瞬時に解決できる秘儀を伝授。

出版社…草思社 分類…410

・もうすぐママは星になる

スー・ローソン 原作 レベッカ・ウィラー 絵



ママがガンになってから、ジェイミーはたくさんのつらいことに向き合ってきた。でも、もうすぐママがいなくなる未来には、いったいどうやって立ちむかえばいいのかわからない。愛と希望、そしてすべてを受け入れる勇気にみちた絵本。

出版社…汐文社 分類…E モ
(とねミドリ館「生涯学習センター」)

健康情報局

「お肌も乾燥注意報、発令中！」

この季節、肌のかゆみを訴える人が増えてきます。症状としては、皮膚がカサカサしたり、ひび割れたりというものから、中には湿疹を生じるケースまでありますが、その多くは『皮脂欠乏症』といい、皮膚の脂分が欠乏することから起きるトラブルなのです。

○加齢とともに低下する皮膚機能

私たちの皮膚の水分量は角質細胞間脂質（セラミド）、天然保湿因子（NMF）、皮脂膜という三つの物質によって一定に保たれています。中でも肌に水分を蓄える働きをしているのがNMFとセラミドで、皮脂膜が乾燥を防ぐ働きをしています。

ところが、加齢とともにこの皮膚機能が低下、これらの物質が減少して角質細胞がはがれ、乾燥した状態になりやすいのです。夏は湿度が高いため、皮脂膜が潤っていますが、冬は乾燥するため機能低下が現れるのです。そして皮膚が乾燥すると、外からの刺激に敏感に反応してかゆみが生じるというわけです。

○若い人も要注意

「皮脂欠乏症」によるかゆみは中高年以上の人に多いのですが、最近ではその低年齢化が起きていま

す。これは、エアコンによって皮膚が乾燥されてしまったり、体の洗いすぎによって必要な皮脂まで取り去ってしまったり、ダイエットによる栄養バランスの崩れなどが原因です。「皮脂欠乏症」によるかゆみは、背中や腰まわり、太もも、すねなどに生じるケースが多いようです。また、人によっては全身に及ぶこともあります。

○日ごろのケアが大切

「皮脂欠乏症」を予防するためには、次のような日常生活の注意が必要となります。

- ①お部屋の乾燥に注意して、加湿器などで湿度を保つ。
- ②入浴時はゴシゴシこすらずにやさしく洗う。
- ③肌着は吸湿性が高く、柔らかい木綿等で、締め付けのないものを着る（特に下着のレースなどにも気をつけてください）。
- ④食事はアルコールや辛いものは、血行がよくなり体温の上昇でかゆみが増すので控え目にする。
- ⑤こまめに保湿クリームなどを塗って、潤い補給をこころがける。

それでも、かゆみがひどい時は、早めに皮膚科などの専門医を受診しましょう。

（健康推進課）

※お詫びと訂正 広報古河10月号16ページ、アイドル登場の中で、お名前に誤りがありました。正しくは門脇楓隣ちゃんです。謹んでお詫び申し上げ、訂正させていただきます。

妹の面倒を見るのが得意！

今月で2回目の誕生日を迎えるお姉ちゃん。妹の面倒を見るのが得意なので、パパもママも小さなお母さんのおかげで助かっています。ありがとう。

2人仲良く、元気な笑顔がパパとママの幸せです。これからもヨロシクね。

（父：秀雄さん・母：祐子さん）

門脇楓隣ちゃん・柑佳ちゃん
（2歳・10カ月・女沼）



表紙写真



10月13日・14日、広域中央運動公園で第9回総和関東ド・マンナカ祭りが開催されました。

写真は、13日の夕方から開かれた「舞DANCE in ド・マンナカ」のかわいいダンサー。30組のダンスチームが出場し、華麗なダンスで会場を沸かせました。

寄付

古河ロータリークラブ（小林靖雄会長）、古河東ロータリークラブ（杉岡榮治会長）、古河中央ロータリークラブ（岡安重勇会長）が、ねんりんピック茨城2007水泳交流大会記念品として、スポーツタオル（ねんりんピックロゴ入り）600枚を寄付。

人口と世帯

（10月1日現在 住民基本台帳から）

総人口 146,029人（-60）

男 73,234人

女 72,795人

世帯数 52,689世帯（-19）

（ ）内は前月比

今月の料理

さばとねぎのたれ煮 <生活習慣予防>



エネルギー=208kcal たんぱく質=17.5g
脂質=9.3mg 炭水化物=10.3mg
食塩相当料=2.7g

材料(4人分)

さば4切れ、ねぎ1本、焼肉のたれ100cc、水200cc

作り方

- ①さばは、皮目に斜め十字に切り目を入れる。
- ②ねぎは、1cm幅の斜め切りにする。
- ③フライパンの焼肉のたれと水200ccを入れて煮立てる。さばは、皮目を上にして入れ、ねぎも加え、落としふたをして7～8分弱火で煮る。

(食生活改善推進協議会)



アイドル登場



パパとママの元気の源！

うめの あいな
梅野愛菜ちゃん
(1歳1カ月・牧野地)



愛菜は『ひよこクラブ6月号』の表紙になりました。我が家の大切な大切な宝物が出来ました。

毎日ちょっとした成長を見せてくれる愛菜に、ただただ大喜びしてしまう新米のパパとママだけど、3人で一緒に成長して行こうネ。

愛菜の笑顔がパパとママの元気の源です。『ありがとう』『ごめんなさい』の素直に言える優しい子に育って下さいネ。(父：鉄平さん・母：妙子さん)

古河風土記

二幅の画像の意味するもの 「ヒポクラテス」と「神農」

古代ギリシアの医師にして西洋医学の祖とされるヒポクラテス。中国における伝説の帝王にして百草をなめて薬を調合したという神農。

わがまち古河の文化財には、江戸時代に描かれた、西洋と東洋それぞれに医学の父として尊敬を集める両者の画像が存在しています(図版を参照)。2幅の画像を大切に伝えてきたのは、古河藩医の後裔である河口家。その医の系譜

については、早くから医学史の専門家によって注目されているところであり、ご存じの向きも少ないでしょう。



▲河口家伝来「ヒポクラテス画像」(右)「神農図」(左) ※共に部分

さてこの2つの画像、すなわち東洋および西洋医学の祖といわれる人物像を、江戸期に遡ってあわせて持ち伝えてきた家は、あまり類例がないかもしれません。西洋の学問を背景に医学を修得した蘭学医たちに、「ヒポクラテス画像」が重視されるのは至極もつともなことでした。一方、伝統の東洋医学を修めた医師たちが「神農図」を神聖視することも当然です。

そもそも、河口家の医学は、オランダ商館医カスバル(1623-1706)に外科医学を学んだ河口良庵(1629-1680)に始まります。そして、彼の弟子で養子に迎

えられた了閑(1644-1714)が医をもって土井家に仕えました。その子孫たちは、その後、蘭学系医術をもって古河藩土井家の医官として活躍したのでした。なかんずく、了閑の孫河口信任は、日本最初の頭部・眼球解剖を実施してその成果を『解屍編』という解剖書にまとめた人物として有名です。

ところで、信任は、家伝のオランダ流医学に加えて、南蛮流外科術(栗崎流)を修得し、さらに東洋医学まで学んでいた。彼を日本医学史有数の解剖学者に押し上げた『解屍編』には、東洋医学の師であった荻野元凱の名前もしばしば登場しています。禁忌とされた人体解剖をおこなった信任の実証精神は、洋の東西を越えた最先端の医学を学ぶことから培ったものであったといってもよいでしょう。

河口家における正月の年中行事「鏡餅式」では、東洋・西洋の枠に囚われない医の系譜を受け継ぎながら、この異なる「医学の父」画像を飾る慣習がありました。こんにち、医学の世界において経験的立場に基づく東洋医学の長所を、現代の医療現場に融合させようとする試みがあるともいわれます。信任をはじめとする同家の医学の先進性をかいま見るようではありませんか。

古河歴史博物館学芸員 永用俊彦

平成19年11月1日発行

●発行所／〒306-0291 茨城県古河市下大野2248 古河市役所 300280 (92) 3111
●編集／広報広聴課 ●ホームページ／<http://www.city.furukawa.lg.jp/>